

SNSで話題の映えスポット！

雲海に浮かぶ“大仏殿”

「バブル遺産」が新たな観光スポットに



庄巻の越前大仏

かつて「バブル遺産」の越前大仏」と言われた勝山市片瀬の大師山清大寺が、「映えスポット」としてSNSで話題になっている。

越前大仏は地元出身の実業家、相互タクシーの創業者多田清氏が約380億円をかけて建立、昭和62年5月に開眼供養。座高が17mある大仏本尊は奈良や鎌倉の大仏よりも大きい。広大な敷地内に巨大な大仏殿・日本一高い五重塔・7m超の仁王像が鎮座す

る大門・四季の美しさを感じるられる日本庭園など壮大で圧倒的なスケールを誇り、勝山市は「大仏の町」として観光客増を期待したが、予想に反して参詣者数は当初から伸び悩み、「門前町」と称する土産物店街はシャッター街に。

宗教法人にしなかつたのは市に固定資産税等の税金を納めたかったためであると言われているが、その後は税金滞納などで市が差し押さえ、大仏と大仏殿は清大寺が管理し、平成14年12月臨済宗妙心寺派の寺院となり宗教法人となる。土地や五重塔などの建物は公売に出されたが買い手は見つからず、市は滞納市税約40億円を民間の債権放棄に相当する不納欠損とした。

拝観料も当初大人3000円が、その後2500円、1000円を経て、現在は500円にまで下げているが、歴史の浅さからなのか、県内在住でも行ったことがないとい

う人も多いのではないかと。

一方で、廃墟・ゴーストタウン化した同所が「珍スポット」として注目されたり、大仏殿の壁面に1712体の小さな石仏がびっしりと並ぶ光景が「見上げると庄巻」と、SNSで「映えスポット」として取り上げられ話題になる。

勝山市にとってお荷物となっていたバブル遺産に思わぬ脚光が浴び、昨年から市観光まちづくり会社が中門付近に水をミスト状に噴出させる装置を2つ設置。大仏殿に人工的に霧を発生させ、雲海を作りだす特別観覧を始めた。大仏殿が雲海に浮かんでいるような演出で、非日常的な雰囲気を出す。

特別観覧は11月30日までの午前8〜9時と午後4〜5時。料金は拝観料込み大人1000円、小中高生500円。思わぬ観光スポットが誕生した勝山市は、インバウンドや県内外の観光客促進を狙う。